

令和8年（2026年）5月25日

## 第4次松本市教育振興基本計画策定に向けた意見書（書面発言）

松本市教育振興基本計画策定委員会 委員 海野暁光

AI・メディア過剰時代における「脳の発達」に基づいた非認知能力の育成と、学校現場の課題（支援を必要とする子の増加）に対する長期的アプローチについて

第3次松本市教育振興基本計画の策定から委員を務めさせていただいております、海野です。本日の第1回会議は所用により欠席いたしますが、第4次計画の基本方針を議論するにあたり、今後の松本市の教育において極めて重要と考える視点について、書面にて意見を提出させていただきます。事務局におかれましては、本意見書を参考資料として委員の皆様へご共有いただけますようお願い申し上げます。

### 1. 提案の背景：AI・メディア過剰時代がもたらす「脳の発達危機」

現在、生成AIの急速な普及やスマートフォンの長時間利用など、子どもたちを取り巻くデジタル環境は激変しています。メディアへの過剰な没頭は、脳への一方的かつ過剰な視覚刺激をもたらす一方で、双方向のリアルな対人コミュニケーションの機会を奪っています。

今、松本市の学校現場において「特別な支援や配慮を必要とする子ども」が急増している背景には、単なる個人の特性だけでなく、幼児期から思春期にかけての「身体性を伴う対人相互作用（リアルな関わり）の圧倒的な不足」が、脳の社会的なネットワーク（ソーシャルブレイン）の発達に影響を与えている可能性が脳科学の分野でも指摘されています。

知識の獲得がデジタル上で完結する時代だからこそ、教育委員会が今取り組むべき最重要課題は、脳科学の知見に基づき、人間特有の「非認知能力（共感性、感情コントロール力、他者への寛容性）」を育むための【脳の土壌改革】です。

### 2. 脳科学的アプローチ：小中高生に「乳幼児との触れ合い」が必要な理由

脳の発達段階（可塑性）において、思春期（10代）は「前頭前皮質（理性を司る）」や「扁桃体（感情を司る）」が人生の中で最もダイレクトに再編成される重要な時期です。この時期に、言葉の通じない、かつ愛おしい存在である「乳幼児」と触れ合うことは、小中高生の脳に以下の劇的な発達効果をもたらします。

#### ①「親性脳（おやせいのう）」の活性化による情緒安定

赤ちゃん特有の匂いや声、柔らかさに触れることで、脳内で「オキシトシン（愛着・信頼のホルモン）」が分泌されます。これにより、思春期特有のイライラやストレスホルモン（コルチゾール）が減少し、脳の感情コントロール機能が安定します。

## ②「想定通りにいかない他者」を通じたメタ認知の発達

メディアの世界は「ボタン一つで思い通りになる」空間です。しかし、赤ちゃんは泣き、叫び、こちらの思い通りには動きません。この「デジタルと真逆の、思い通りにならない存在」とリアルに向き合い、その欲求を察知しようとするプロセスこそが、脳の前頭前皮質を猛烈に刺激し、高い共感性や忍耐力を育みます。

### 3. 学校現場への長期的解決策としての提案

現在、多くの学校が目先の「支援を必要とする子への対応」に追われ、疲弊しています。本計画には、その場しのぎの対策ではなく、「次世代の、生きづらさを抱える子どもを減らす」という長期的かつ根本的な予防教育の視点が必要です。

学校空間において、小中高生が地域の乳幼児やその保護者と定期的に触れ合う「乳幼児ふれあい共育（きょういく）プログラム」を位置づけることで、以下のような循環を生み出します。

#### ① 生きづらさを抱える生徒の「自己有用感」の回復

教科学習で自信を失っている生徒や、コミュニケーションに課題を抱える生徒が、赤ちゃんに受け入れられ、保護者から「ありがとう」と感謝される体験を通じて、「自分は誰かの役に立てる」という強烈な自己肯定感を獲得します。これにより、学校の「荒れ」を予防し、不登校傾向にある生徒の心の居場所となります。

#### ②「次世代の親」の育成による、発達・孤立リスクの予防

兄弟のいない現代の小中高生が、リアルな子育ての喜びと大変さを五感で体験することは、将来の「孤立育児の予防」や「育児不安の軽減（育児自己効力感の向上）」に直結します。将来、彼らが親になった時、豊かな愛着環境で我が子（松本市の未来の子どもたち）を育てるための「心のワクチン」となります。

### 4. 結び：学校現場に負担をかけない「持続可能な実施体制」の構築へ

教員の多忙化に配慮し、本プログラムの導入にあたっては、地域のNPO法人、子育て支援センター、助産師会等の外部専門人材が企画・進行をパッケージで担い、学校は場所と時数を提供する座組み（コミュニティ・スクール等の既存インフラの活用）を想定しています。

メディアに囲まれ、人の温もりに触れる機会が遮断されがちな現代だからこそ、教育の力で「命のバトン」を繋ぐ場を保障する必要があります。

第4次計画が、激変する時代を生きる子どもたちの「脳と心」を根本から守り育てる、先見性に満ちた計画となるよう、本提案を基本方針の一助としてご検討いただけますと幸いです。

以上の通り、意見を提出いたします。